



私学受験オピニオンリーダー誌

選ばれる 私学

®

— 第7号 —

参加校



青稜中学校・高等学校

〒142-8550 東京都品川区二葉1-6-6
tel 03-3782-1502
web <https://www.seiryo-js.ed.jp/>



駒込中学校・高等学校

〒113-0022 東京都文京区千駄木5-6-25
tel 03-3828-4141
web <https://www.komagome.ed.jp/>



今号の特集

特集① | 広報対談企画

青稜 × 駒込

— これからの私学を語る、広報担当者の本音と想い —

特集② | 文化祭レポート

生徒たちの努力と成長が光る文化祭の一日に密着

選ばれる私学—その条件

バオバブの木と私学

駒込中学校・高等学校
校長 河合 孝允



世界的に有名な童話「星の王子様」に出て来るバオバブの木は3本あります。そしてこの3本の木の根がわずか半年ほどで巨大になり、星を破壊してしまいます。王子様が欲しかったのはバオバブが大きくなる前に食べてくれる羊たちでした。国を亡ぼす「三本のバオバブの木」とは、ナチズムとファシズムと、そして帝国主義を指しています。それを食べてくれる羊とは何でしょうか？

王子様はまた、ウワバミが大きな動物を飲み込んだ絵を、一枚の大きく膨らんだマントの絵として描きます。でも誰もその絵の意味を理解してくれません。仕方なくウワバミが飲み込んだ動物の絵をマントの中に描きます。それは大きな象でした。でもすぐ消化されてウワバミと一体化されてしまうので、一枚のマントの絵を描くしかなかったのです。大きな象とは金儲け以外に関心を持たない大富豪たちの支配する「経済大国」のことでした。今のアメリカやロシアに王子様がやって来ても同じ絵を描くことでしょう。

さて、私学です！「王子様に選ばれる」私学のことです。バオバブの木の芽が顔を出しているのなら、すぐ摘み取らなくてはなりません。すでに日本の大学は101法人が再建不能状態に陥っているのです。では、学校における「3本のバオバブの木」とは何でしょうか？それすら思いつかない「大人たちの学校」に星の王子様が訪ねてくることは無いでしょう。

学校が衰退するときは必ず「三無主義」が学校全体にはびこっています。「無気力・無感動・無責任」です。

星の王子様は言います。「百万本のバラの花より、僕がおいて来た僕の星の一本のバラの花に僕は責任がある」と。勉強が苦手な不得意な子供もバラの花と同じです。無条件にその子の持つわがままやトゲを「無償の愛」で抱き留めた時、学校存在の意味が生まれます。「優劣意識で生徒を選別することではない」のです。存在に意味を与えるためには単に自由であるだけでは不十分です。自分をこの大地に拘束してくれる重力と同じように、自分を必要としてくれる人間関係の絆の強さが必要です。悩める魂を持った生徒たちを温かく抱き留める「重力」を学校は持たなければなりません。人は他者の心の花園に招き入れられたとき、孤独から解放され、自立自尊の私が誕生します。学校もまた同じです。なりたい自分になる「to Free」な学園創造をした学校に、「未来からの来訪者」である生徒は参集します。時代は今、その分岐点にあります。現在の「高度情報化時代」はまもなく収斂し、代わって、5番目の時代「Society5.0超スマート社会」が切って落とされます。選ばれる私学もまたそのなかで取捨選択されます。しかし、今流行の「成果主義」を持ち上げて言っているわけではありません。子供たちは「未来からの来訪者」です。そして、中高6年間は「人生の華の時代」です。今しかできないことが山のようにあります。チャレンジして失敗して涙を流すことなどいくらでもありますが、「艱難辛苦汝を珠玉と為す」と言われるように「行動主体」としての精神をこそ育むべきものです。学校はこの生徒たちの成長して行く姿を、静かにそして暖かく見守るまなざしは何より大切です。人は人の心によってのみ人として育つからです。

ところで、私たち「東京私学」は学校間の「連帯のロンド(輪)」を大切に守り育てています。受験生の皆さんも、「ご縁のあった私学」で、夢を追い求めて大人への階段を誇らしく駆け上ってもらいたいと願っています。「なせばなるなさねばならぬ何事も、為らぬは人が為さぬなりけり」です。光あるうちに光の中を歩みましょう！





青稜中学校・高等学校

校長 青田 泰明先生

毎年9月、青稜中学校・高等学校の校舎には、音楽、笑い声、掛け合いの音が響き渡ります。そう、私たちにとって最大の行事である【青稜祭】の到来です。今年のテーマは「絆響(ばんきょう)」。

仲間と共に創り上げる文化祭を通して、絆が深まり、心が互いに響き合う——この造語にはそんな生徒たちの想いが込められています。

青稜祭の準備期間中、放課後の教室をのぞくと、段ボールで大きなセットを組み立てる生徒、演劇の台詞を繰り返す生徒、模擬店のメニュー表をデザインする生徒……それぞれが自分の得意分野を生かしながら一つの目標に向かって動いています。時には意見がぶつかることもあります。話し合いを重ね、互いを理解し合いながら一つの形を作り上げるためにチャレンジを積み重ねていく。そこにあるのは、「青稜らしい学び」の姿そのものです。

青稜では、勉強だけでなく、友人たちと協働し、考えを形にする力を大切にしています。授業では探究的な学びやディスカッションを多く取り入れ、学校行事では経験学習の意義を最大限に活かせるように生徒同士が意見を交わし創造性を働かせる機会を増やす。また、それと

同時に生徒一人ひとりが深く考える時間も構築しています。それ以外にも、SDGsをテーマにした活動や、企業・行政と連携した社会課題解決型プロジェクトなど、近年では教室の外にも「学びの場」を広げていますが、青稜祭で培われる創造力やチームワークは、まさにこうした日々の学びの延長線上にあると感じています。

青稜祭当日、来場された方々からよく聞こえてくるのは、「生徒たちが楽しそう」「発想が本当に面白い」という声です。それは、私たちが掲げる教育方針——「Change」「Challenge」「Contribution」という3つのCが生み出す、「互いの個性を尊重し合い、支え合いながら挑戦を重ねる」という価値観が、生徒たちの笑顔と自信につながっているからだと考えます。

「絆響」という言葉の通り、青稜では学びも人間関係も、響き合うことで豊かに広がっていきます。年に一度の青稜祭は、生徒たちが自分の可能性に挑戦し、仲間と共に未来を切り拓く様子が、最も鮮やかに映し出される日です。来年、もしくは数年後に中学受験を考えている皆さまにも、是非一度は私たちのこの「響き合う学びの場」を体験して頂ければ幸いです。



駒込中学校・高等学校

学校長 河合 孝允先生

— 伝統・文化・未来創造の学園 —

本校は今年創立100周年を迎えます。前身の勧学講院からであれば343年を数えます。東京大学とも深い関係を持ち、戦前は東大をトップで卒業し総長から銀時計を下賜されたいわゆる「銀時計組」の学生が、東大の教授職が空くまで駒込中学に赴任して教鞭をとっていました。その一人に2千年前の古代蓮を現代によみがえらせた大賀博士がいます。この蓮の花は「大賀蓮」とよばれ、今では多くの市町村の公園で美しい花を咲かせています。この大賀博士も駒込中学校の理科の先生としてお勤めいただいた方なのです。当然、本校から東大に進学する生徒も多く、当時は「開成のバンカラ駒中のリベラル」と並び称された「大正リベラリズム」の進学校でした。その東大に本校から進み、東大教授となり、東大地震研究所の所長として日本の地震学の開拓者になった方が山本武夫教授でした。今年その東大地震研究所が100周年を迎え東大安田講堂で11月16日に記念式典が行われます。その式典に駒込学園の校長が招待されています。その理由は、百年に及ぶ深い人的交流の歴史を両校が持っているからなのです。近年、中学・高校は偏差値で序列化され輪切りにされていますが、本校は「なりたい自分になりなさい」という自由でおおらかな校風を大切に堅持していますから、その校風を慕って「駒込大好き人間」が偏差値に関係なくたくさん集まって来てくれています。ところで、本校はすでにミレニアム改革に着手しており、文部科学省認可の教育特区校に認定されています。カリキュラムやコース設定に独自の裁量権が与えられていますから、国際教養コースや理系先進コースや特S

コースなど、オリジナルな時代対応専門コースを設けて、グローバル教育やICT・STEAM教育にウイングを切っています。STEAM教育に関して言えば埼玉大学STEAM教育センターと提携して毎週出張授業をしてもらい、中学時代から自走ロボットを作成し、自分たちのスマホでプログラミングして音楽に合わせて躍らせるなど、その成果を競い合っています。グローバル教育では海外研修の場を豊かに設定し、国境の垣根を越えた人材育成を行っています。ハワイスタディーツアー、マルタ島語学研修、セブ島語学研修、オーストラリア・ニュージーランド留学制度、シンガポール・マレーシア修学旅行などが設定され、留学生には学費の半額免除や成績優秀者には総額で800万円の留学補助金も支給されています。日本は今、少子化、人口減が急速で200を超える自治体が消滅の危機にさらされています。どこの自治体も復興策に必死で、広く懸賞論文を求めています。本校生徒は果敢にこれに応じて復興策を提案して、多くの入賞を勝ち取っています。例えば、東北の村興しとして播種から収穫までを一台のAIロボットでこなす「スマート農業」を提案し、そのロボットも作成し応募し金賞を勝ち取っています。また、東京都のベンチャー企業立ち上げコンテストで優秀賞を受賞した女子生徒は、ベンチャー企業2社を立ち上げ社長になって卒業して行きました。100年前の駒中立ち上げの精神が次の100年につながっている駒込です。校門を入った瞬間「あっここだ」と感じたら受験して下さい！校風としての花園が皆さんの心を染め抜いてお迎えいたします！

『選ばれる私学』

中高一貫 **共学校** 対談



教育の王道を行く「駒込」

企画広報室 五反田 寿美子さん



スピード感あふれる「青稜」

募集広報部部長 伊東 充先生

今回は、東京都内で注目を集める中高一貫の共学校から、青稜中学校・高等学校の伊東先生と駒込中学校・高等学校の五反田さんにご登場いただきました。

笑顔の絶えないやり取りの中に、それぞれの学校が大切にしている教育の姿勢や、受験生・保護者への熱いメッセージが込められています。

“ここでしか聞けない本音”が次々と飛び出した、臨場感いっぱいの対談をお届けします。

まず初めに、私学の良さについて教えてください。

伊東先生(青稜) 「うちが共学化した頃、地域には男子の受け皿がなく、“やんちゃな子”がどっと集まりました。当時から保護者の方に“公立じゃ不安、でも私立なら安心して預けられる”と言われることが多かったですね。文化祭に来られる親御さんも“私立の環境なら安心できる”とおっしゃいます。

そして何より大きいのは、卒業しても『先生に会いたい』と学校に戻って来られること。これは私立の最大の強みです。」

五反田さん(駒込) 「本当にそうですね。私も私立出身で、卒業後も恩師とつながっています。先日も外部相談

会で突然声をかけられ、振り返ったら高校時代の担任(笑)。一瞬“誰!?”となっても、すぐに当時の関係に戻れる。“卒業しても帰れる場所がある”——これが私学の魅力だと思います。」

つながりや心の教育についてはいかがでしょう。

五反田さん 「駒込は創立100周年を迎えました。卒業生や保護者と再びつながれるのは私学ならではの財産です。そしてもう一つ大切にしているのが心の教育。仏教精神を背景に“どう生きるか”を考える場を提供しています。ある帰国生は『海外にいたからこそ、日本の伝統である仏教を学びたい』と語って入学してくれました。**アイデンティティを育てるのは私学の大事な役割**だと思います。」

伊東先生 「うちでも同じです。卒業生が文化祭や説明会に顔を出して“先生いますか?”と訪ねてくれる。その姿を見ると、**学校は人でできている**とあらためて実感します。理念があるからこそ、その学校のカラーが生まれる。そして6年間の学びが子どものアイデンティティにまで刻まれていくんだと思います。」



広報活動で重視していることは？

五反田さん 「最近、生徒のスカウト活動を始めました。説明会などでその生徒たちに登壇してもらい、忖度なしで話してもらう。だからこそリアルな姿が伝わるんです。広報の役割は単なる情報発信ではなく、**学校の元気を届けること**。さらに言えば、**相手の元気を見つけること**だと思っています。そういった“元気”の循環が学校全体をさらに明るくするんです。」

伊東先生 「やはり大事なのは**学校のありのままを見てもらう**ということ。人や雰囲気をしっかり感じ取ってもらいたいので、外部説明会などでは実際に学校に来てくださいと必ずお伝えしています。あとは倉庫で荷物整理や在庫整理、電話対応などなので、おしゃべりと荷物番を頑張っています(笑)。」

お互いの学校をどう見えていますか？

伊東先生 「駒込さんは新しい教育のパイオニア。ICTや探究などをいち早く導入し、しかも“なぜやるのか”を言語化している。理論立てて王道を歩んでいるので、“新しい教育とは何か”を知りたいければ駒込を見れば良いと思わせる本当に尊敬する存在です。」

五反田さん 「恐縮です(笑)。実際には校長が大きなビジョンを描き、教頭・副校長が形にして、私たち広報が必死に追いかけている。チームで動いているのが強みなんです。」

「一方で、青稜さんの勢いとスピード感は本当にすごい。海外入試を始める際には青稜さんの要項を“まるっと”参考にしました。整理されていて現場も動きやすく、

受験生や保護者にとってもわかりやすい。柔軟に形にできるのは青稜ならではの強さですね。」

伊東先生 「ありがとうございます(笑)。東京の私学は仲がいいので、“いいものはすぐ取り入れる！”ができる。互いに学び合えるのが面白isanんです。」

説明会などで受験生や保護者からよく受ける質問や、誤解されがちなことはありますか？

伊東先生 「説明会などで保護者の方とお話しているとき、特にお父さん方は数値やデータを重視される傾向があると感じます。私も男なので気持ちは良くわかるのですが、そういうとき私はいつも“お子さんと学校をよく見て総合的に判断ください”とお伝えしています。**“人それぞれの青稜”**や**“人それぞれの駒込”**があるので、実際に足を運び、先生や生徒と接して“ここなら安心して任せられる”と思えるかどうか大切です。そういう視点で保護者の方がしっかり選んだ候補の中からお子さんが選んだ学校こそ、お子さんの未来を支える場所になると思います。」

五反田さん 「駒込はなぜか男子校だと勘違いされることが多いんです。でも実はずっと共学です。中学は男子6:女子4くらいで、高校ではほぼ半々。女子が少ないクラスでは女子が男子を引っ張る場面もあるほどで、共学の面白さが日常の中にあります。この誌面を通じて、“駒込＝共学”をしっかり伝えてほしいですね(笑)。」

(一同 笑)





『選ばれる私学』文化祭特集 青稜中学校・高等学校「青稜祭」



一生徒の主体性が輝く、笑顔あふれる1日—



2025年9月28日(日)、青稜中学校・高等学校にて、年に一度の文化祭「青稜祭」が開催されました。

秋晴れに恵まれた日曜日、地域の方々や卒業生、受験生とそのご家族など、多くの来場者が詰めかけ、校内は活気と笑顔に包まれていました。クラス・クラブ・有志団体による展示や出し物が数多く並び、それぞれに個性や工夫が凝らされていました。中学生も高校生も一丸となり、自ら考え、動き、仲間と協力して一つの「場」を創り上げる様子からは、青稜生らしい自主性とチームワークの強さが感じられました。

私たち「選ばれる私学」編集部は、青稜祭当日に各所を回りながら、会場でのスナップ撮影を行い、現場の熱気を肌で感じてきました。

～青稜祭実行委員長(高校2年生)の言葉～

青稜祭実行委員会は、中学2年生から高校2年生の融資で結成されています。7月から本格的に活動を開始し、当日まで誠心誠意取り組んできました。今年は実行委員が100名を超え、人数が多いからこそ団結して楽しく活動できました。実行委員長の「総括」という立場で、みんなが一致団結して仕事に取り組めるようにまと

め、実行委員の絆も深まった夏休みになりました。

今年のテーマは「伴響(ばんきょう)」です。文化祭という同じ目標に向かう中で、仲間との絆が深まり、心が互いに響きあうようになっていきたい。そんな想いを込めたテーマです。

見応え！ ダンス



午前中の体育館は、ダンス部クルーとダンス部チア・バレエのステージを一目見ようと多くの来場者で満席に。青稜ではダンスが非常に盛んで、クルーは111名、チア・バレエは60名という大所帯。それぞれのチームが個性を生かした華やかなパフォーマンスを披露しました。

ステージいっぱい広がる笑顔と息の合った動き、そして音楽に合わせて繰り出されるキレのあるダンスは圧巻。観客席からは自然と手拍子が起こり、会場全体が一体となって盛り上がりました。

全力で踊る姿に元気をもらい、見ているこちらまで笑顔になる、まさに青稜らしい明るさとエネルギーに満ちたステージでした。

見応え！

音楽



体育館では箏曲部、吹奏楽部、コーラス部が次々と登場し、迫力ある演奏や美しいハーモニーを響かせました。どのステージも練習の成果が感じられ、観客を魅了します。

一方、記念館多目的教室では、個性あふれる7つのバンドが登場。ロックやポップスなどジャンルもさまざまで、熱気あふれる演奏に会場は大盛り上がりでした。

見たいステージの時間に合わせて生徒たちが移動する様子は、まるで“夏フェス”のよう。

どのグループも「観客に楽しんでもらいたい」という思いが伝わる構成で、一つひとつの音に心がこもった素晴らしいパフォーマンスでした。

～青稜祭 担当教員松村先生の言葉～

青稜祭は、毎年9月下旬に行われています。

文化祭の土台作りから、本番の運営や進行、終了後の片付けまでのすべてをする「青稜祭実行委員会」という影の立役者の存在

「青稜祭実行委員会」(以下、「実行委員」)という臨時委員会が存在し、幹部の生徒を中心に5月から文化祭に向けての本格的な活動が始まります。実行委員のやることは、“クラス、学年、部活動、中後夜祭などの文化祭の出し物に関する調整、機材の搬入・設置、文化祭当日の運営方法の決定、当日の進行、文化祭後の片付け・清掃”などを中心に、本当に細かいことも含めると数えきれないほど

にあります。

彼らが作り上げた土台をもとに、各クラス、部活動の発表をはじめとした文化祭が成り立っています。実行委員の生徒は、文化祭前日の準備日～本番2日間～文化祭翌日の片付け日にかけて、4日間にわたり、朝早くから夜まで学校中を駆け回りながら、実行委員の仕事を全うします。

文化祭後の「実行委員の解散式」では、幹部の生徒を中心に5月からの4ヶ月間にわたる活動の中で得た、それぞれの思いを熱く話し、涙を流す生徒もたくさん見られます。顧問としても、本当に忙しい4ヶ月間ではありますが、成長していく生徒の姿や文化祭が終わって晴れ晴れとした表情でそれぞれの心の奥にある思いを真剣に

話す生徒の姿を見ていると、つい目頭が熱くなることもあります。

本番

そんな実行委員の支えもあり、本番では高校2年生までの生徒たちがそれぞれの場で活躍できていたのではないのでしょうか。自分たちが用意してきたものを最大限

に発揮するという共通目標ができることで生徒間のコミュニケーションが活発化し、集団としての絆がより深いものになったのではないかと思います。また、実行委員に対して「お疲れさま!」「ありがとう!」などと声をかけてくれる生徒がたくさんいたことも印象的でした。



見応え! 書道



体育館のステージを締めくくったのは、発足わずか1年とは思えない堂々とした演技を見せた「青稜書道同好会」。

[Alexandros]の「ワタリドリ」に合わせて、約3m×6mもの大きな紙に力強く筆を走らせる姿は、まさに曲名の通り“飛翔”そのもの。

音楽と書のリズムが一体となり、観客の心を一瞬で引き込んでいきました。

墨が舞い、紙面いっぱいに文字が浮かび上がるたび、体育館には歓声と拍手が響き渡ります。一人ひとりの個性が調和し、チームとしての一体感が際立ったステージ。青春のエネルギーと情熱がほとばしる、圧巻のパフォーマンスでした。



素敵な門がお出迎え！



校庭はおいしそうな食べ物がたくさん！



中学生の展示も見ごたえ抜群！

『選ばれる私学』文化祭特集 駒込中学校・高等学校「玉蘭祭」



本格的な演技にクギツケ！



「おいしい！」の声に笑顔！



サンクsgivingガーデンでの合唱は満員！



一創立100周年の節目にふさわしい、
熱気あふれる2日間 一



暑かったけど勧誘がんばりました！



精員御礼の吹奏楽部の演奏！



みんな大好きこまはくちゃん！



予約が次々と埋まる茶道室！



楽しさが伝わるダンスコンテスト！



中学生が書いた素敵なポスターがたくさん！



クレープは大好評で完売！

2025年9月20日(土)・21日(日)、駒込学園にて文化祭「玉蘭祭(はくれんさい)」が開催されました。今年、創立100周年という大きな節目を迎えた駒込学園。その記念イヤーの文化祭とあって、校内は例年以上の熱気と笑顔に包まれ、多くの来場者で賑わっていました。

私たち「選ばれる私学」編集部は、21日(日)に取材にお邪魔しました。今回は、その当日の様子を、インタビューやスナップを交えながら、余すところなくレポートいたします。

～生徒会顧問の山本先生にインタビュー～

玉蘭祭の実行委員会は何人いるのですか？

山本先生 実行委員会というのは「文化委員会」と「生徒会」が合体したような組織です。人数は大体合わせて80名ほど。多いときには100人を超えることもあります。やはり規模が大きいので、それだけ多くの人が必要になります。

みんながそれぞれ役割や業務を分担しているのですか？

山本先生 そうですね。たとえば、盆栽作や装飾、企画販売、飲料販売など、各セクションに分かれています。そしてそれをまとめる「総務局」があります。その中でも特にやる気のあるメンバーが10人ほど「中枢」として活動しています。

その中枢メンバーを間近で見ている、印象的なエピソードはありますか？

山本先生 私はこの学校の出身で、当時は実行委員長をしていました。ですから今の生徒たちを後輩のように見えていますし、育てているような気持ちです。私の頃は力技で「とにかくやってみえ」みたいな雰囲気でしたが、今は違いますね。デジタルも活用して、自分たちで東京ファンのサイトを作ったり、Instagramを更新したり、カウントダウン動画やVR動画も制作しています。現在のInstagramフォロワーは1300人もいて、生徒の努力が実を結んでいると感じました。

私もフォロワーの一人です 笑

これだけ大きい規模になると、大変なことも多いと思いますが、生徒たちが苦勞していると思うことはありますか？

山本先生 やはり人数が多い分、自分の意思とは裏腹に「やらなきゃいけない」状況の子もいます。クラスから必ず選出しなければならないこともあり。

そういった子たちの出席や作業の実態もきちんと数として見ていく必要があります。

たとえば、夏休みの作業日、10人来る予定でも実際は来なかったりしますからね。

生徒たちにこの学園祭を通して学んでほしいこと、感じてほしいことはありますか？

山本先生 僕が実行委員に常に言っているのは「来年に引き継げる体制をつくること」。最終的な理想は、先生の力を借りずに、生徒だけで文化祭を回せる状態です。

そのためには、新しいことをやったら必ずマニュアルを作らせて、それを引き継ぐ。

これは社会人になったときの仕事の動き方を今のうちから学んでいるということでもあります。

最後に、この記事を読んでもくださる方、あるいは学園祭に参加してくださる保護者や受験生の皆さんに、ぜひ「ここを見てほしい」というポイントはありますか？

山本先生 ぜひ「生き生きしている生徒」を見てほしいです。

一人一人がエネルギーを注いで文化祭に取り組んでいる。これは、受験のストレスからの一時の解放でもあります。

そういった生徒たちの姿を見て感じ取っていただきたい。

そして、入学後には「自分もこの場所に立ちたい」と思ってくれると一番うれしいです。



左:ベティンクさん 右:山本先生

～生徒会長ベティンクさんにインタビュー～

準備で大変だったことはありますか？

ベティンクさん 夏休みは文化祭準備にとっても大事な期間ですが、なかなか連絡がつかなかったり、人が集まらない日もあったりしました。どうしても責任者

に仕事集中してしまっていて、マンパワーが足りず準備が進まない時期もありました。夏休みは特に大変だったなと思います。

それを乗り越えて、一番楽しかった瞬間はどんなときですか？

ベティンクさん 入口の門を完成したときに初めて見たとき、「ああ、やっとできた！」と実感しました。あの達成感が一番楽しかった瞬間です。準備中は大変でしたが、振り返るとそれすらも楽しかったなと思います。特に門装飾の担当のみんなが本当に頑張ってくれて、素敵な門ができあがったことがうれしかったです。

昨日の初日(20日土曜)は雨でしたがどんな備えや対応をしましたか？

ベティンクさん 雨がふりましたが、予報が出ていたので事前に対策をしていました。水を掃くためのトンボを用意したり、雨が強いときは装飾を屋根の下に移動させたり。せっかく準備してきたものを台無しにしないよう、早めに工夫して動きました。



パワフルな人カメリーゴーランド！



忙しいけど楽しい笑顔！



素敵な歌声に引き込まれました！



開場に向けた最後の準備！



お客さんの悲鳴が何よりうれしい！



理系先進コースの本格的なプログラミング！



体育館中に響き渡る太鼓の音！



多くの来場者に受付も大忙し！



カメラの向けるとしっかし笑顔+ポーズ！

受験生や来場者に見てほしい見どころは？

ベティンクさん クラスごとの出し物はどれも個性があって楽しいですが、特に部活や団体の展示は「入学したらこういうことができるんだな」とイメージが湧くと思います。ダンス部や和太鼓のステージも、部活動の雰囲気を感じられるのでおすすめです。

食べ物の模擬店もありますし、生徒一人ひとりの魅力が伝わる場面がたくさんあるので、ぜひいろいろ回って楽しんでほしいです。

玉蘭祭を通してどのような成長を感じましたか？

ベティンクさん 自分はこれまで、何か任されてもギリギリまでやらないタイプでした。でも生徒会で活動する

うちに、「任されたらすぐに動こう」という気持ちに変わりました。その姿勢は普段の学校生活にもつながっていて、提出物も早めに終わらせるようになったし、テストの準備も前より早く取りかかれるようになりました。

先生がおっしゃっていた「社会人としての力を身につけてほしい」という言葉、その意味が少しずつ自分の中で形になってきている気がします。ついてきてるのになって。

素敵なお話をありがとうございました。最終日も頑張ってください。

ベティンクさん ありがとうございます。頑張ります！





駒込中学校

中学説明会

11月15日(土) 14:00～「過去問解説」

12月21日(日)「過去問体験&解説」

①10:00～「私立型」

②14:00～(選択)「適性検査型」
「プログラミング入試」
「自己表現入試」

中学募集要項



〒113-0022

東京都文京区千駄木2-6-25

TEL03-3828-4141 (代表)

<https://www.komagome.ed.jp>



高校説明会

11月22日(土) 14:30～

「過去問解説 英語・数学」

12月6日(土) 14:30～

「過去問解説 英語・国語」

高校募集要項



駒込高等学校



<アクセス>

東京メトロ千代田線「千駄木」徒歩7分

東京メトロ南北線「本駒込」徒歩5分

都営三田線「白山」徒歩7分

都営バス草63「駒込千駄木町(駒込学園前)」



青稜中学校・高等学校

2025-2026